

A-1: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 10:30-12:00 新C203(2階)

大学発ベンチャー創出におけるURAの機能

大学、研究開発法人等の研究機関が保有する研究資源を世の中に広く還元する出口戦略の一つとしての大学発ベンチャーは、イノベーション推進の担い手として期待されており、今後もその重要性が増していくと思われる。企業においても、研究開発の自前主義から脱却し、企業成長をうながす起爆剤として研究開発型ベンチャー企業の高い技術力、成長力を積極的に取り込むオープンイノベーションへの転換が必要とされている。

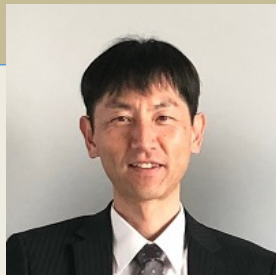
こうした状況から、ベンチャー企業の創出を後押しする制度改革、補助事業等の環境整備が進められ、成功モデルとなる企業が継続的に創出される明るい兆しが出始めてきている。その一方で、自らが保有する研究資源を事業化に結び付けた経験の浅い研究機関においては、事業化のノウハウ・資金・人材・情報等の不足が新たな事業化推進を図る上での大きな足枷となっている。

本セッションでは、ベンチャー企業、ベンチャーキャピタル、研究機関それぞれの異なる視点からベンチャー創出に向けた取り組み等をご紹介頂くとともに、大学発ベンチャーの創出に携わるURAを含めた支援組織が、今後のシーズ事業化に向けた各ステージで直面する課題に対し、効果的な支援を行う上で必要な視点、役割、マインド等について考え、議論を深める機会を提供したい。

オーガナイザー

河上 寛:

国立大学法人福井大学 産学官連携本部 URA



1995年富山大学工学研究科修士課程修了。同年、民間企業に入社し、インクジェットプリントヘッドの技術開発に従事。2018年5月から、福井大学産学連携本部にて、ポストアワード、産学官連携業務を担当。

樋口 人志: 国立大学法人福井大学

産学官連携本部・知的財産・技術移転部 特命教授



1981年東北大学工学部電子工学科卒。民間企業に入社し、研究開発、新規事業の立ち上げに従事。その後、知的財産部門に異動し、現場密着型の知財体制を構築し、権利化実務、知財リスク対応、知財戦略の策定実行。2016年8月から、福井大学産学官連携本部にて発明発掘から技術移転までを担当。企業経験を活かした視点から大学シーズの効果的な権利化、契約、知財活用、知財戦略等の知財マネジメント活動、それらを駆使したシーズマッチング活動を推進中。また、URA組織の研究開発マネジメント強化に向け、統括アドバイザーとして参画。弁理士。

講演者

青山 聡：
株式会社ブルックマンテクノロジー 代表取締役社長



1996年大阪大学基礎工学部修士課程修了。同年(株)日立製作所半導体事業部に入社、マイコン・メモリなど各種LSI開発業務に従事。(株)ルネサステクノロジ(現ルネサスエレクトロニクス)異動などを経て2004年同社を退社。同年、静岡大学工学部博士後期課程に入学。2007年博士(工学)取得。在学中の2006年7月に(株)ブルックマンテクノロジー入社後、2010年代表取締役に就任、現在に至る。

名倉 勝：
Beyond Next Ventures株式会社 マネージャー



東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻博士課程修了。マサチューセッツ工科大学修士課程修了。2011年4月文部科学省入省後、大学発ベンチャー政策、産学連携政策、起業家教育政策や独立行政法人改革等を担当。コンサルティング会社を経て、2018年12月に当社参画。

花房 世規：徳島大学 研究支援・産官学連携センター
産官学連携部門・特任助教

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創生工学専攻を修了後、民間企業に入社。2018年7月より研究支援・産官学連携センターの特任助教として着任。主に理工学、生物分野の教員を担当し、研究成果の社会実装化や大学発ベンチャー企業の設立・育成等の業務に従事。徳島大学産学院にも所属し、研究開発事業部門長として「組織」対「組織」の産学連携活動を推進し、新規産業の創出に向けた事業の企画立案などにも携わる。